

令和4年度 第3回山陽小野田市地域公共交通会議 議事録

令和4年12月16日（金）

1 協議事項

発言者	発言要旨
◆地域公共交通確保維持事業（フィーダー系統）に係る事業評価（資料1）	
会 長	ご質問やご意見などはないか。
委 員	今年度の事業評価では、昨年度より改善していることが実績値に現れている。コロナ禍においても自治会と連携して利用促進したり、契約更新を機に事業者とも改善の取組を進めているとのことであり、引き続き取り組んでいただきたい。
委 員	厚狭北部地域について、1 ページ目のコメントに「登録者」という言葉がある。前もって登録する仕組みになっているのか。
事 務 局	殿様号、姫様号については事前に登録が必要となっている。運行区域が広いと、利用者の住所をあらかじめタクシー会社が把握することで、利用がスムーズになる。
委 員	高泊地区も同じか。
事 務 局	高泊地区は、運行区域が厚狭北部よりも狭く、停留所で乗降する方式を採用しており、自宅の情報が不要であるため、事前登録は求めている。
会 長	目標は達成できていないが、コロナ禍であること、今後の改善を考えているということで、了承するというところでよろしいか。
各 委 員	(承認)
会 長	承認された。本議事については以上とする。

発言者	発言要旨
◆地域公共交通調査等事業（地域公共交通計画策定）に係る事業評価（資料2）	
会 長	地域公共交通計画策定そのものについての国の補助であり、計画策定は完了していないが、補助金の制度上、現時点での評価と理解している。質問等はないか。 計画の具体的な内容はその後審議するので、補助が適正に処理されているのかの確認である。妥当ということでよろしいか。
各 委 員	(承認)
会 長	承認された。本議事については以上とする。

発言者	発言要旨
◆山陽小野田市地域公共交通計画の策定について（資料3、資料4）	
会 長	資料4では、年度内の計画策定を目指したスケジュールが示されている。次回の地域公共交通会議で素案が示されるため、資料3は素案に向けた方向性だと思っている。資料3の方向で良いか、ご意見をいただきたい。
委 員	<p>①基本方針には賛成。厚狭北部地域のデマンド型交通について、目標達成のための事業が5ページから掲載されているが、利用促進により実績を上げることが必要である。そのためには何をしていくのか。</p> <p>②新聞に掲載されていたが、厚狭高校と田部高校が統合するということで、今後は他の学校との競争になる。そのために鉄道などの公共交通は重要である。山口東京理科大学は、船木鉄道のフリーパス制度のおかげで随分改善された。鉄道に自転車も一緒に乗せられれば買物も通学も行動範囲が広がる。鉄道の利用につながらないか。</p> <p>③厚狭駅前にある文化会館の利用状況が、宇部に比べて良くないという話がある。文化会館は新幹線駅に近く、遠方からの利便性が高い一方で、食事ができるところがないし、厚狭駅にも南北自由通路がない。また、厚狭駅まで宇部線・小野田線を延ばすことができれば、文化会館の活性化や厚狭高校の魅力向上につながるのではないか。</p> <p>④厚狭高校に隣接する場所に、新駅を設置することによって利便性が増すのではないか。</p> <p>⑤ねたろう号、いとね号は、厚狭高生の通学支援となるよう見直しを検討することだが、バスの転回場所の確保が難しい。そこで厚狭高校の敷地に乗り入れるのも一案ではないか。敷地内にバス停を作り、転回できるようにしてはどうか。</p> <p>⑥デマンド型交通について。自分の周囲では確かにマイカー利用が多いが、夫が妻を病院に送迎しているケースもあり、ドライバー役の人が亡くなったりすると頼れるのは公共交通のみになる。そのために、車両を少なくしても公共交通のサービスレベルを維持してほしい。</p>
会 長	<p>厚狭高校について、人口減少の中で地域の高校を残したいという思いがあると思う。通学は保護者と本人の責任という捉え方もあるが、高校を支える、残すために公共交通が必要という意見は同感するところである。</p> <p>いくつかの観点からご意見をいただいたが、事務局から回答できるか。</p>
事 務 局	<p>②③④ まちづくりやJRの運行にかかわる分野であり、行政の公共交通担当部局ではお答えが難しい。</p> <p>⑤委員ご指摘のとおり厚狭高校敷地への乗り入れも、見直しの選択肢の1つかと思う。ただ、現地をみると道が狭隘で、通学路にもなっているため、</p>

	<p>慎重な検討と調整が必要である。高校生が、厚狭駅から長い距離を徒歩や自転車で通学しているのは確かなので、厚狭高校の魅力向上や支える観点からもしっかり対応したい。</p> <p>①⑥ デマンド型交通に係る利用促進の重要性、必要なサービス水準の維持についてはおっしゃる通りだと思う。人口減少下で厳しい状況にあるが、妥当な水準のサービスを模索していきたい。</p>
委員	<p>自転車を列車に載せる件については、現状でもカバーなどをかけて収納すれば折り畳み自転車の積み込みは可能となっている。他には専用の団体臨時列車などでも運転しているが、通常運行の中で列車に自転車を持ち込む仕組みは、現時点ではできていない。</p> <p>その他の点については弊社の一存では回答できないこともあり、事務局と調整させていただきたい。</p>
委員	<p>自転車について、駅の周りに駐輪場がある。JR小野田線利用促進協議会は様々な補助をしているが、補助を出すより、車両に2台分くらい自転車を固定するような設備をつけた方が利用促進になるのではないかと。</p> <p>また、デマンド型交通の最大の利用者は地元の方である。利用者にアンケートをとるだけでなく、自治会長への説明の機会を確保するなど、地元としっかり連携して欲しい。</p>
会長	<p>自転車について、委員のイメージに近いのは群馬県の私鉄の事例かと思う。JRの安全基準からすると難しいと考えられるのと、駅の造りが跨線橋を前提としており、ホームまで自転車を持っていく必要があることも念頭に置かなければならない。</p>
委員	<p>①鉄道のユーザーが増えるには便数を増やすことが必要である。十数年で大幅に便数が減った。便数が減れば利用者が減る。減便した場合でも固定費があるので、便ごとの営業係数なり効率性が良くなるとは思わない。便数ではなく、設備改善など利用を改善すれば利用者が増えると思う。</p> <p>②JR小野田線は、なぜ小野田駅で1番線を利用しないのか。高齢者や高校生の利用が多いが、高齢者は跨線橋を渡るのが大変である。</p> <p>③毎朝7時～8時まで、小野田高生が自転車で駅周辺を数多く通るが、駅を大きく迂回している。なぜ通学時間帯だけでも、跨線橋の北側に出場できるようにできないのか。高校生のJRの利用者は多い。北側に改札を作れば、通学はずっと楽になるのではないかと。</p> <p>④小野田駅も厚狭駅も、南北の自由通路がほしいという住民の強い要望が以前からある。難しいと思うが、小野田駅については跨線橋の外に隣接するように作れば数百万円でできるのではないかと。</p> <p>⑤おのだサンパークの最寄り駅は南中川駅または南小野田駅になるが、消防</p>

	署あたりに仮設の駅を作れば一番近い。特に南中川駅は高低差があって高齢者は上り下りが大変である。こういったアイデアはどうか。
事務局	①～⑤ いずれもまちづくりやJRの運行に関することであり、事務局として回答するのは難しい。ご意見としてしっかりと受け止めたい。
会長	小野田駅関係は実行するなら大きな話になる。例えば他市をみると、都市計画の話になる。立地適正化計画の中で都市機能誘導区域を設定し、その中で国の様々な事業を使うこともできる。大規模なハード事業になるので、まず山陽小野田市として都市計画に小野田駅をどう位置付けるかを議論する必要がある。小野田駅のバス乗り場の再配置も同様で、望ましい空間配分など都市計画の整理が必要ではないか。現時点で交通サイドからの対応は難しいかと思う。
会長	事業者から事業内容について確認したいことなどないか。
委員	目標を達成するために行う事業・実施主体が記載してあるが、例として鉄道に関する項目も挙げられている。この場で一つ一つの議論はできないが、全体的なスケジュールもタイトなので、綿密に打ち合わせをしていかないと具体的な事業の提示や調整が難しいということをご理解いただきたい。 協力はもちろんしていくが、大きな内容になっているところもあるので、早めに事務局と調整する必要があると認識していただきたい。
会長	鉄道とバスの相互利用は是非進めてほしいが、交渉の要素も多いので委員の言われるとおりにかと思う。取組方針に連携・相互補完というキーワードが出ているが、調整事項が増えてくるので、計画を具体化する中で進めていただきたい。
委員	山口東京理科大学では学生証でバスに乗車できるという仕組みが採用されているということだが、船鉄バスがガラガラに近い状態で走っているのが気になる。それよりは安くても乗っているほうがいい。宇部市のように高齢者への優遇措置など考えられないか。高齢化社会における免許返納促進の一助になるし、高齢者の交通事故減少にも影響するのではないかと思う。
会長	山口東京理科大学については、学生の移動を便利にする意図で、大学が船木鉄道に一定額支出している。高齢優待となると、そのお金を誰が出すか。宇部市の場合も、交通局ではなく宇部市が年間で億単位のお金を一般会計から支出している。基本的には宇部市のような高齢優待はあった方がいいと思うが、最終的には自治体の判断であり、負担について山陽小野田市の中で熟議が必要となる。山陽小野田市ではこういう議論をしているのか。
委員	高齢者優待については市議会でも一般質問が出たり、高齢者からの要望もあったりする。宇部市は支出額が億単位という話があったが、本市は65歳以上が2万人、75歳以上が約1万人となっており、試算すると、年間数千万円

	<p>の予算が必要になる。介護などその他の高齢者事業で予算も必要となる中で、国の補助のない支出は厳しいというのが現状の市の考えである。</p>
会 長	<p>高齢者に公共交通を利用していただくために有効な手法は、宇部方式のような一乗車 100 円の優待が唯一というわけではない。財政負担との兼ね合いもあるが、運賃の上限を設定する、一定料金で乗り放題になるなどの方法もある。</p> <p>鉄道とバス、バス同士の相互連携が県内でうまくできていないと思う。他方、県外に目を向けると J R とバスの連携事例もあるので、山陽小野田市で是非進めてほしい。</p> <p>高校への通学利便性向上は市を越えた課題であるため、周辺市との連携も大事かと思う。お互いのまちの学校にお互いの市民が通う現状がある中、どういった利便性の向上ができるかは周辺市とも考えてほしい。</p> <p>本日は、様々なご意見をいただき感謝する。都市計画と関係するご意見もあった。ハード事業なので簡単に実施していただきとは言えないが、将来的な課題として、視野に入れてもいいのではないかと感じた。</p> <p>本日いただいたご意見を受けて、事務局は素案の策定に向けて関係者との調整を進めていただきたい。</p>
事 務 局	<p>先ほどの高齢者向けの優待施策について補足する。船木鉄道のシルバーパスなど事業者独自で実施されているサービスもある。まずはそうしたものを市民にしっかりお知らせするのが大事かと思う。</p> <p>本日素案の大まかな方向性をお示しした。より丁寧に、事業者の理解を得ながら実現していきたい。素案までに具体性をつめるのはスケジュール的には厳しいが、計画期間の 5 年間の中でご理解いただきながら丁寧に進めていきたい。</p>
会 長	<p>素案では目標値の設定もするが、他の自治体でも苦勞されているところがある。これは次回の議論になろうかと思う。</p> <p>議題は以上とする。</p>

2 その他

発言者	発言要旨
会 長	その他、各委員から何かあるか。
委 員	<p>情報共有させていただく。10 月 5 日に J R の 2021 年度の輸送密度を発表した。山陽本線、小野田線、美祢線ともに 2020 年度とほぼ同様な利用状況であった。コロナの影響もあるが、コロナ前と比較しても戻っておらず厳しい状況となっている。</p> <p>また、本日 14 時に来年 3 月のダイヤ改正について発表した。新幹線も在来</p>

	<p>線も運行本数は変わらない。新幹線はわかりやすいダイヤになるよう、可能な限り各時間の発車時刻を統一する。2月下旬にはダイヤを見ていただけるようになる。新幹線の最終便の上り福山行きは、ご利用状況を踏まえて約10～15分前倒しの設定になる。</p>
会 長	<p>JRの利用状況については報道もされているところだが、2021年に若干回復したものの、以前と比べるとまだ低い水準ということである。これまでコロナの影響としてきたが、コロナだけのせいにしていいのかということもある。どうしていくべきかこの場でも検討していきたい。</p>